学会長あいさつ

2024年度沖縄県医学検査学会（第59回）開催に当たって

学会長　手登根　稔
（社会医療法人仁愛会　浦添総合病院、沖臨技会長）

この度、2024年度沖縄県医学検査学会（第59回）の学会長を拝命いたしました浦添総合病院の手登根です。これまで沖縄県臨床検査技師会（沖臨技）の副会長8期16年間、会長3期6年間と長きにわたって携わって参りましたが、沖縄県医学検査学会の学会長を務めるのは今回が初めてであります。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類へと移行され、当学会も昨年度より4年ぶりに対面での学術集会に切り替え、久々に盛況に終えたところであります。Web併用は、離島県沖縄にとってメリットは大きいですが、やはり対面で質問や意見を述べたり、直に顔を突き合わせてコミュニケーションが取れることは、Webでは味わえない醍醐味があるかと痛感致します。今回も現地開催のみの開催方式で行いますので是非多くの会員の方々が参加されますことを期待しております。

さて、今回のテーマは「アフターコロナ～臨床検査のこれまで、そしてこれから～」としました。コロナ禍も明け、各種学会や研修会等も以前のように対面開催が増えてきました。コロナ禍において、我々臨床検査技師はPCR検査やワクチン接種等で社会的に注目され、確実に以前より認知度は上がっていると思います。しかし、まだまだアピール不足を痛感いたします。

これまで、当会としましてもそれなりに、健康展等を通じてアピールしてきましたが、なかなか認知度向上にはつながってきませんでした。昨年度は広報活動を強化して、マスコミを通じて臨床検査技師をアピールしてきました。昨年11月にはラジオ沖縄のお昼の番組「ティーサージパラダイス」に出演し、「臨床検査技師って知ってますか？」のアンケートをヒープーさんに取っていただいたところ、4割の方が知っている（名前だけ知っている方も含む）との回答結果でした。今回の会長講演では、これらのことも踏まえて、70周年を迎えた沖臨技のこれまでと今後の課題について、私の方から述べる予定です。

今回、特別講演には青森県臨床検査技師会会長であられる奥沢悦子技師をお招きし、「災害・救急・プレホスピタルに挑む！-北国の臨床検査技師の今-」というタイトルで講演を賜ります。奥沢氏はDMAT隊員の資格も持ち、現在救命救急センター参事として、日本で唯一ドクターヘリに乗り込む臨床検査技師として活躍されております。元旦に起きた能登半島大地震においても、日臨技の災害対策本部で中心的役割を果たし活躍されておられる方ですので、リアルな最新の情報を拝聴出来るものと期待しております。

シンポジウムとしましては、「コロナ禍を振り返って～各方面から次の有事に備えるために～」を企画いたしました。今回のパンデミックに対する沖臨技の取り組み、実際の医療現場、民間検査センター、そして行政の立場から、コロナ禍を振り返りながら次の有事を見据えて討論していただきます。

部門企画としましては、生理検査部門（ハンズオンセミナー）と病理細胞部門（実習）から有意義な内容の企画を出していただきました。一般演題も37演題と、短期間の募集にもかかわらず、多くの演題を出していただき感謝申し上げます。また、ランチョンセミナーも、4社から提供いただきます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

会員の皆様におかれましては、是非多くの方々が現地に足を運んでいただき、会員同士のコミュニケーションをはかるとともに、多くの情報を収集し、個々のスキルアップに繋げていただきますよう祈念致します。

最後になりますが、運営に協力いただきました役員・実務委員の皆様、そしてご支援いただきました賛助会員の皆様に深謝いたしますとともに、今後ともご支援賜りますよう、心よりお願い申し上げます。